

入選 内藤 優斗 (ないとう ゆうと) 帝京八王子中 3年生

作品名：「神様のカルテ」を読んで

図 書：神様のカルテ

私がこの本を選んだ理由は、私の将来の夢が医師なので、医師関連の本を選びました。

この本を読んでみて分かった事は、大きな病院で働いて患者を助ける事だけが、医療じゃないということです。

患者の方とのコミュニケーションをとり、安心させて、治療を施したり、それが叶わない場合は、患者の方の好きな事をさせてあげ、最後をしっかりと見取ってあげることも医療なんだと思いました。

私は将来、高度な医療を学び、多くの患者さんを助けたいと、この本を読むまでは思っていましたが、患者さんとの「絆」を大切にし、やっていくことも悪くないと思うようになりました。私が将来どっちの医療をやっていくかはわからないけれど、この本を読んで、自分が抱いていた医療の考えを改めることができました。

作中に登場する癌末期患者の高齢者が、こんなことを言っていました。

「人は生きていると、前へ前へという気持ちばかり急いで、どんどん大切なものを置き去りにしていくものでしょう。本当に正しいことというのは、一番初めの場所にあるかもしれない」と。

この言葉を読んで私が感じた事は、人は、後ろを振り返らずに進む事しか考えていないくて、問題は、振り返り下を見る事で発見があるのではないか。そして、人生で立ち止まった時に、すぐに前へ行こうとせず、スタート地点から振り返れば、正しい答えが見つかるかもしれない、ということです。

私は、この言葉は勉強にも当てはまると思います。なぜなら、勉強も先に進んでは、復習、また進んでは、復習、それを繰り返していきます。復習を怠って、前に、前に、進むことばかり考えていると、正しい答えを見過ごしてしまいがちだと思ったからです。この言葉を読んで復習は、改めて大切だと思いました。そして、勉強には、熱意が必要ということも、この本を読んで思いました。

主人公は、最後に次のような事を言っています。「思えば人生なるものは、特別な技術やら才能やらをもって魔法のように作り出すものではない。人が

生まれおちたその足下の土くれの下に、最初から埋もれているものではなかろうか。」

私は、まさしくその通りだと思います。なぜなら、人生は作り出すものではなく、切り開いていくものだと思うからです。

人生に迷った時こそ立ち止まり、足下を見れば、自然と大切なものが見えてくる。私にはそう伝わりました。この言葉は、私が今後生きていく上の「支え」になるでしょう。

この「神様のカルテ」という本を読んで、一番今後の人生に生かしていきたいと思ったことだ。

この本は、人生とは何かを、人の生と死とリンクさせている気がする。続編も、でているので読んでみたいと思う。

